

# きれいなうちにバックアップを取っておく

Windows Vista/7にはバックアップの方法が2つある。

一つは「ファイルのバックアップまたは復元」(図22～図26)。初回に選んだドライブ全体を保存し、2回目以降は変更されたファイルなど差分を保存する。バックアップ先には、バックアップ元よりも大きい容量が必要だ。状況によって異なるが、推奨のデータ容量は200GB以上。初回は数十分以上の時間がかかることもある。

もう一つはハードディスクの状態を丸ごと保存する「システムイメージの作成」(図27～図29)。こちらはパソコンのリカバリーにも使える完全なバックアップなので、システムが正常に動作する環境のうちに実行しておきたい。DVD/ブルーレイなどのディスクに保存できるが、ハードディスクのサイズによって相当の枚数が必要になる。なお、XPにはこれらの機能がないので、バックアップ用のアプリケーションが必要だ。

## ●Windows 7の自動バックアップ機能を使う

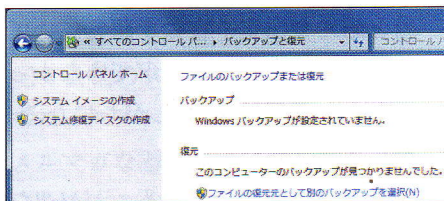


図22 コントロールパネルから「バックアップと復元」を開く。「バックアップの設定」をクリック

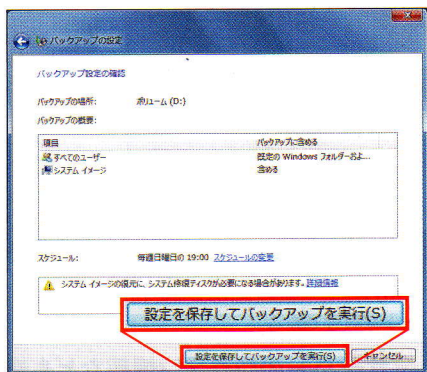
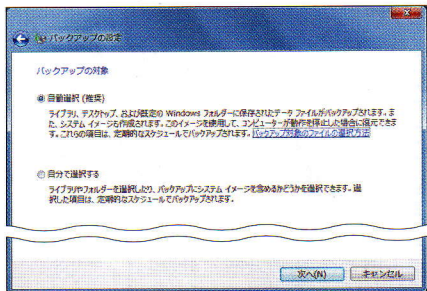


図25 バックアップの設定を確認したら、「設定を保存してバックアップを実行」をクリック

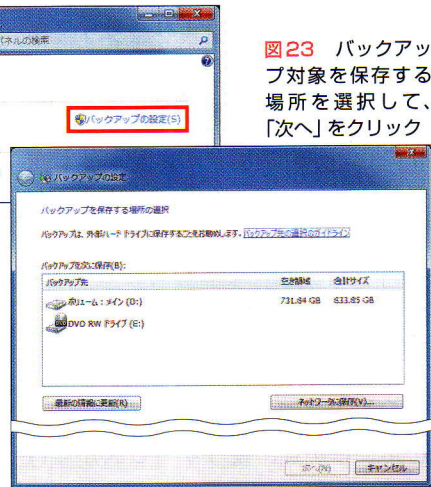


図23 バックアップ対象を保存する場所を選択して、「次へ」をクリック

図24 バックアップ対象を選ぶ。通常は「自動選択(推奨)」を選べばよい。選んだら「次へ」

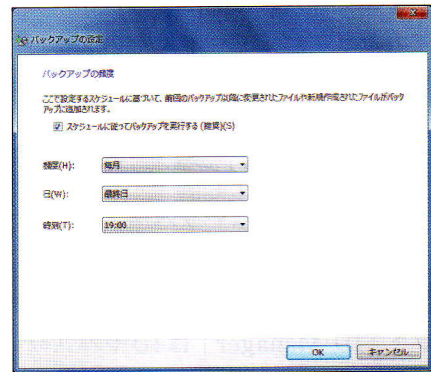


図26 バックアップの頻度や時間を設定して「OK」をクリック

## ●ドライブイメージを丸ごとディスクに保存する

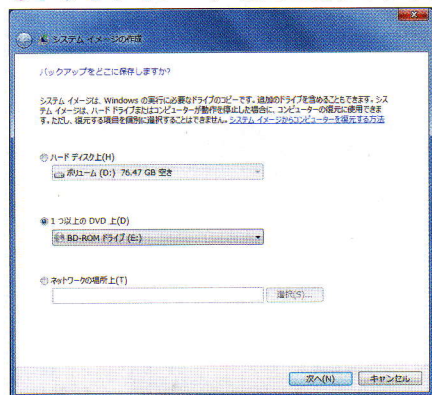


図27 図22で画面左のメニューにある「システムイメージの作成」をクリック。システムイメージの保存先を選んで「次へ」をクリックする

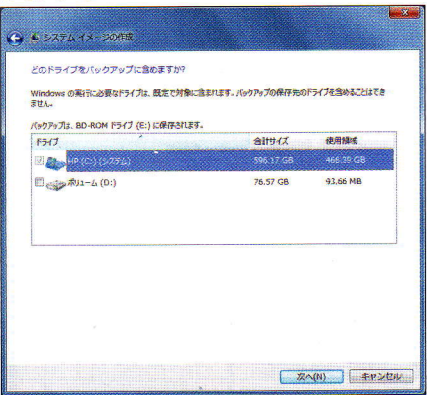


図29 「バックアップの開始」をクリックする

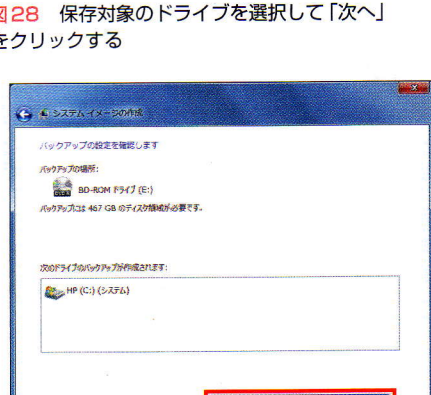


図28 保存対象のドライブを選択して「次へ」をクリックする